

寺内重夫さんを囲んだ「九九物語」の会ご参加の皆さま

寺内重夫さんが4月30日に大往生を遂げられました。先生の93歳お誕生日の日に、思い出を語り合いませんか！「会は、自然消滅が良い」と、第3次「九九物語」終了の頃に仰っていたので、先生の「語りへのお仕事」などを偲び最後の会にしたいと思います。

第32回 「九九物語」(2007年開始・第四次・第4回目)

2018年8月2日(木) 午後1時半～4時半

会場 武蔵野公会堂3F会議室 中央線吉祥寺駅北口 徒歩3分

会費 会場費、諸経費、茶菓子代など何時もの会費お一人¥990円+¥500円 合計¥1490円

*八月お盆に、私達の気持ちをお花等に託して会員一同でお供えしたいのでプラスしました。

定員 40人 先着お申込み順

申込先 電話(留守電の時は、お名前と電話番号をお願いします) 042-985-4400

住所 350-1233 日高市下鹿山 494-2-10-301 ハガキ等でもお受けします。曲田晴美

“寺内重夫さんを囲む会”の始まりは、2002年6月からの立川女性センター・AIMでの連続4回講座「寺内重夫さんに聞く会」でした。1977年から始まった「語り手たちの会」で子どもと共に聞いた先生のお話の魅力、少しでも先生からじかにまとめて勉強したいと20人程で先生を囲みました。

次いで、寺内先生のお話会が1000回に達したということで先生から「第1000回お話会へのご招待」があり、2003年7月7日に同じ立川の会場で開くことが出来ました。

そして、第2期「寺内重夫さんに聞く会」が、同年9月から同じ会場で連続3回講座として開かれ、先生の再話されたお話とともに、先生の纏められた沢山の「中国昔話資料」を頂きました。

先生が80歳になられた時、先生からのご提案で「八十歳八十語り」の会を、2005年から2006年にかけて連続8回。会場は、「語り手たちの会」発足時から連続10年例会の続いた武蔵野公会堂で開き、「語り手たちの会」会員以外の方々も沢山参加して下さって現在に至りました。

「九九物語」は、先生の81歳・半寿を期に、“九九・八十一”と洒落て「百物語」形式で2007年7月からスタート。「語り手たちの会」初期からの語り手・三浦克子さんや渡辺和子さんたち語りの先輩たちと共に、地域で活躍されている伝承の語り手も来て下さっています。第一次・99話で完結。第三次297話まで進み、去年2017年10月に第四次の3回目・通算第31回は、寺内先生を囲んで江東区門前仲町の「chaabee」で迎える事ができ、今回は通算第32回目です。

寺内先生からは、子どもたちと共に“かっぱの手”や“豆本”“切手のしおり”等々、数えきれないほどのお手作りの品々を頂くと共に、「ことばとかたち」通信で「お話」とは何かをずっと学ばせて頂きました。

今回は、“書承の語り手”寺内重夫先生からのお話の数々や思い出を辿りませんか！

前回、先生から「昔話は継承しなくてはならない。私は子どもにも孫にも継承を意識して来なかったが、“江戸尻取り唄”は、ぜひ“語り手たち”に継承出来たらと思う。伝承の文学は、口承で伝えられ、そこには“節”があった。書承から離れて、江戸尻取り唄を伝承したい。また、自分の語りを創っていくことが大事」とお話しがありましたので、今回も「江戸尻取り唄」と共に、伝承・継承のお話、印象に残ったお話、先生との思い出話などを、語り合い聞き合えたらと思います。

2018年(平成30)初夏

「九九物語」世話人 ・大間知キヌ・君川みち子・末吉正子・田辺萬理子・曲田晴美